



手作りギターを手にバンド発表をする百合さん(左から二番目)

感謝 水上の友

発行 社会福祉法人
大阪水上隣保館
〒618-0001
大阪府三島郡島本町
山崎5丁目3-18
発行人 水本行彦
編集広報委員会
法人事務局 075-961-0711
FAX 075-961-1144
<http://www.osakasujorinpokan.com/>
印刷所(有)木村桂文社

二〇二五年標語
平和を実現する人々は、幸いである
—マタイによる福音書五章九節—

『無理をしない』

難しさと大切さ

百合

私は、不登校などが原因で小学三年生のときに、ひびきに入所しました。入所した当初は不安で毎日泣いていました。

ひびきには『みゅーず』という分教室があります。小さな学校で、個別的に関わってくれるので、私も毎日通うことができました。先生たちはやりたいことを応援してくれました。中学生の時、好きなバンドを真似て発表しようと、見た目は本物そっくりのギターを作りしたことを懐しく覚えています。

一時期、本校(地域校)登校のチャレンジをしたことがありました。私にとって本校登校は一番の目標でした。私は頑張りたい気持ちが強かつた分、自分を追い込んでしまい、結局通えなくなっていました。たくさん泣き、職員さんや先生たち

とたくさん話し、分教室に戻り中学卒業まで通いました。すごく悔しかった反面、どこか「無理なものは無理」と割り切ることが、自分を追い込まない方法なのかもしれないと感じた経験になりました。

当時の私は、学校だけでなく人との距離感や家族のことでも、しんどくなることが多々ありました。そんなとき、いつも話を聞いてくれていたのがセラピスト(心理士)でした。しんどくなると泣いて動けなくなっていた私の、ぐちゃぐちゃな気持ちを一緒に言葉にし整理してくれました。この経験が重ねられたことで、私は少しずつ強くなれました。

中学卒業と同時に、ひびきを退所した私は、父母宅ではなく祖父母宅に帰り、そこから単位制高校に進学しました。毎日初めてしっかり通えた三年間でした。父母とも一定の距離を取りながらの生活は、家族との付き合い方などを考える時間にもなりました。

大学はひびきでの経験に影響を受け、福井学園に進学しました。ここでも私は頑張りすぎてしんどくなり、ひびきの職員さんや母にも相談し、休学することにしました。一日全部やめたこと

遅れて卒業することができました。そんな中で私が行き着いたのは、キヤパシティ以上のことをして潰れるよりも、自分のできる範囲で、長く続ける方が大事なんだということです。

就職はサポートを受けながら保険会社の事務職として働き始め、今に至ります。そして、この春には結婚もしました。仕事も家事もちゃんとしなくてはと自分を追い込んでしまいます。夫や家族が話を聞いてくれます。しんどなったときに、そばで支えてくれる人が私にはすっとういます。そのことに感謝しながら、これからも少しずつ進んでいこうと思います。

(ひびき 二〇二一年度卒園)

クリスマス おめでとうございます



人が義とされるのは行いによるのであつて信仰だけによるものではあります。

せん。

—新約聖書ヤコブの手紙 二章一四節—

核兵器のない世界の実現、一度と使われてはならないと、証言を通して示してきた「日本被団協」の訴えや願い、そしてノーベル和平賞受賞の意味を、深く噛みしめました。一日全部やめたこと

で気持ちが楽になり、心配してくれた友達からの励ましもあり、復学し半年

社会福祉法人

大阪水上隣保館

この度、『プレイグランド・オブ・ホープ』さんと『すかいりーくホールディング』さんに、大型遊具を寄贈・設置していただきました。

設置場所は、遙やひびきの子どもたちがよく遊び、建物の裏手にある広場です。

十月十五日から、整地や道具の搬入が始まり、三日間の行程で作業を進めていただき、ボランティアの方が多くご参加くださったおかげで、準備も着々と進んでいきました。

みんなが、活発に遊ぶうちに、汚れたり、傷ついたりしてしまったことが予想されますが、定期的なメンテナンスも含まれたご支援と聞き、職員はささいに感謝の思いを募らせております。子どもたちが施設で生活する中での思い出の場所が、またひとつ増えたことを嬉しく思います。

（指導員
阿津坂泰弘



『したいこと』

児童相談所のケースワーカーさんと
ひびきの担当さんとおやつパーティー
をしたい！

『すっとこのままがいい』
目をパンパンに腫らして起きてきた
Aちゃん。職員は驚いて「痛くない?」
など心配し、目を冷やしたり、通院の
手配をしていますが、その横で鏡を見
ながら「かわいい」と腫れた目を絶賛
し「すっとこのままがいい」と言って
いました。瞼がピンクになっていたか
らだそうです。 (小一 女子)

『将来の夢』

僕は就職先を学校の先生から紹介してもらい調理関係で考えています。何年か働くと調理師免許が取れるそうで、いつかその免許でキッチンカーのお店を持つて、いろんなイベントを回りたいです。 (高二 男子)

みんなの広場



カット絵・5歳 男子 「ひっつきむしで作ったクマとウサギ」



延原正海先生召天記念会

法人理事延原正海先生は九月一十八日に逝去され、十一月四日（月）にゆりの礼拝堂にて『召天記念会』が執り行われました。

礼拝の前に、延原先生のご遺志によりご親族と関係者代表で、桜の木に散骨が行われました。そこには、奥様の千恵香先生も散骨されていました。その後、礼拝堂にて元弥栄の郷施設長の井上喜雄牧師の司式の下、礼拝が行われ多くの卒園生、旧職員、ご親交のあつた方々が駆けつけられました。

その後の偲ぶ会では、延原先生が執筆された『愛と平和の福祉実践論』が日本国憲法の公布日である、十一月三日に合わせて出版されましたので、ご出席された皆さまに配布されました。

大阪水上隣保館の法人理事としても大きな役割を担い、永年に渡る尊い働きに、心より感謝する祈りを捧げます。

延原先生を偲ぶ



一九六七年に遼学園に指導員として就任されて以降、寮長や館長補佐を経て一〇〇一年から二年間、延原先生は弥栄の郷施設長を務められました。

延原先生は机に向かって仕事をされるというよりも、入居者や職員のいるところに来て、動き回るような方でした。ある時は、床にこびりついたゴミをヘラで入念に取り除き、またある時はクラブ活動で、太鼓を叩きながら陽気に踊つておられることもありました。

した際一張筋の綱た心酔なんや
ろしくな」とおっしゃつていまし
たが、先生が実践されてこられた『愛
ある働き人』として、この先も、理
念に基づき、取り組んでいきますの
で、安心ください。
どんな時も真っすぐに法人運営に
尽力されてきた雄姿を忘れません。

(弥栄の郷 統括 赤木優一)

おと
ぎれ

▼人生を共に歩める信頼で生きる彼女ができ、結婚された河原くんのお写真に心があたたかくなりました。支援される周りの方々の熱い気持ちもしみじみ感じられました。また『みんなの広場』の中一女子のアイデアに素晴らしいものを感じました。

格もレベルアップしていく驚きました。
前回はまだ、空振りがあつたり暴投もあつたりといった感じでしたが、今回
は逆に僕の方が三振を取られ、ホームランを打たれてしまうなど、やられて
しまう側に回っていました。今後は、僕もしつかりレベルアップして挑まな
くてはなりません。

▼河原順一君の手紙を読んで、水上図書館にお願いした多くの子どもたちのことを思い出しています。すべての子どもが実り多い人生を歩んでいるように願っています。

▼輪島市復興支援手伝いに遙学園の男子高校生が職員と一緒に参加されたこと、うれしく拝讀しました。みんなみんなこの社会の構成員であることを実感したことでしょう。どうぞ、引き続きこの活動が継続されますように。

▼いつも水上の友を送つてください
ありがとうございます。子どもたちが
元気によく日々を過ごし、成長され
るよう、祈っています。

(徳島県 鈴木圭子)

計報

延原正海さん

法人理事

御靈の上に神様の祝福が豊かにありますようにお祈り致します。

(德島県
鈴木圭子)

▼『訪問を重ねる中で感じた

児童養護施設

遙学園

『ケイトーホーム』開設

島本町桜井台に、新しく地域小規模児童養護施設『ケイトーホーム』を開設します。定員は六名で、中高生を中心とした構成です。

すでに、遙学園には三カ所の地域小規模児童養護施設がありますが、老朽化の問題や立地などから新しい物件を探していました。しかし、6LDKほどの物件を家賃の上限もある中で探すとなると、簡単にはいきません。良い物件が見つかったと思っても、すぐに契約が他で決まってしまうなど、半ば諦めかけていた時に、今回の物件に出会えました。

「ご紹介いただいた」支援者さんは、長年に渡り交流があり、小学一年生を入学時にお祝いの食事会に連れて行ってくださったり、園のスポーツパーティーやクリスマス会にお菓子をくださったり、卒園生に記念品をくださっています。

物件は、長らく空き物件となっていましたため、傷みがひどくリフォームが必要な状況でしたが、それでもご支援者さんが担ってくださいました。

夏休み中の高校生男子を『ケイトーホーム』の作業現場にアルバイトとして雇っていたいたり、貴重な体験も



(指導員 荒賀政宏)

『ケイトーホーム』に移り住む子どもたちは、新しい環境での生活に期待も心とした構成です。

家具屋で見本として配置されているモニールームなどを見ては、自分たちの部屋にどのように配置するのかなど、楽しそうに話している様子も見られました。

開設の前から、子どもたちも様々な形で関わらせてもらつた『ケイトーホーム』を、地域の方にも支えられながら、大切に使わせていただきます。

(指導員 荒賀政宏)

この『つどい』での遊びの中には才セロやパズル、囲碁や将棋に百人一首などの昔ながらの遊びもあり、日本の文化に触れられる機会もあります。そこで将棋に熱中した子どもを見て男の子が興味を持ち、打ち方を教えてもらひ、二人がホームでも将棋を打つようになりました。最終的にはホームで将棋トーナメントを行うまでになりました。年齢も性格もバラバラな子どもたちが、将棋という遊びをきっかけにひとつになつていきました。

更に、毛糸や絵の具等工作グッズもあり、たくさんの材料の中から自由な発想でモノ作りを楽しむ子どももいます。周りの声が聞こえないほど熱中しており、その熱は施設でも冷めることはありません。段ボールやお菓子の箱などを使って毎日のように工作してい

児童養護施設 翼(つばさ)

広がる輪

月に一回、近隣にある『信行寺』の本堂を開放してもらい、地域の方と集う機会があります。水上の友第一四四号三面でもご紹介しましたが、地域のプラットフォーム作りの一環として始まりました。子どもと大人、皆で自由に遊んだり話したり歌つたり、ゆつたりとした時間を過ごしています。

この『つどい』での遊びの中には才セロやパズル、囲碁や将棋に百人一首などの昔ながらの遊びもあり、日本の文化に触れられる機会もあります。そこで将棋に熱中した子どもを見て男の子が興味を持ち、打ち方を教えてもらひ、二人がホームでも将棋を打つようになりました。最終的にはホームで将棋トーナメントを行うまでになりました。年齢も性格もバラバラな子どもたちが、将棋という遊びをきっかけにひとつになつていきました。

最初は各自で楽しんでいた子どもたちですが、少しづつその楽しみは変わり、皆で楽しいことを考え創り出すようになりました。各自の意見が合わさって、日々を追うごとに形を変え、とても面白いものができあがります。思い描いていたものができた時は、皆で一緒に喜びました。自分だけの楽しみから皆との楽しみにつながる、とても素敵な輪が広がっています。



(児童指導員 松田薫子)

SOSへの『手当』

子どもたちは日々、多様な身体症状を訴えます。多い時では、日に十名以上の子どもたちが、それぞれの表現方法で懸命に訴えています。

ある朝、小学五年生のKくんが首を押さえながら「動かへん」と泣きじやぐっていました。普段は明るくノリの良い『お調子者』の男の子ですが、初めての経験にパニックになつたのでしょうか。首はどう見ても『寝違え』の状態なのでやうやく説明するのですが、「寝違え」を知らないKくんには伝わらず、「首が動かへん!」とパニックは続きます。

そこで私は『寝違え』の状態をどうにかイメージしてもらおうと、私が床に寝ころび「私の頭を持ち上げてみて」とKくんにお願いしてみました。突然の私の行動に戸惑いつつも、Kくんは私の頭を恐る恐る持ち上げます。「頭つてすごい重いやろ?」と聞くと「うん」と驚いた様子。「うん」など重いものを首は支えてねん。だから、首が疲れた時には重みに耐えられなくなつて捻挫みたいになるんや」と説明すると、「うん」と腑に落ちた様子。シップを貼ると、ようやく安心した表情になりました。



(看護師 川崎悦代)

挨拶のように、会つたびに小さな傷や発赤を指さして見せてくれる子や、部屋に呼び、そつと秘密を打ち明ける

ように訴える子。私の顔を見ると急に、痛いところはないかとあちこち探し始める子など、訴えは三者三様で意味深いものがあります。

どんなに小さな訴えであっても、できるだけ何らかの『手当』をやるようになっています。医学的には小さな傷でも、子どもたちにとっては訳の分からぬ不可解な現象であり、不安材料のひとつになるからです。

不調を訴えたときに、確実に『楽にしてもらえた』という経験は、子どもたちの確かな安心感につながります。身体症状を訴え、手当てしてもらつことを通して、困った時にはSOSを出せる練習をしてほしいと思い、日々『手当』しています。

初めてのお誕生日

一歳の誕生日をはじめて里親宅で迎える△ちゃん。ケーキを囲み皆で歌つています。里父が嬉しさのあまり△ちゃんに顔を近づけてスリスリした瞬間、驚いて里父の顔をパンチしてしまいました。(里親支援専門相談員 石阪博子)

遠方の父母の元へ、電車を乗り継ぎ向かいます。お出かけ気分でご機嫌でしたが、都会の騒音に目をパチパチさせていました。久しぶりの再会に緊張していましたが、抱っこをしてもらい、笑顔で帰つきました。

(家庭支援専門相談員 森 美津子)

土日の散歩では、小中学生さんと出会います。サッカーを教えてくれたり、拾った栗を分けてくれたり、カマキリを触らせてくれたり。最初は緊張した様子の子どもも、次第に目をキラキラさせて小中学生に憧れの眼差しを向けっていました。(副主任 今道さやか)

者が食に困らないように植えられた木々。時を経ても繋がっていることに感謝します。(栄養士 山本明美)

憧れの存在

△ちゃんは、遙学園に引っ越しだったやんとD君のことが大好きです。お散歩中に二人もそれに応えてぎゅーっとハグしてくれます。こんな関係が続ければいいなと感じた瞬間でした。

(主任 王子麻衣子)



(副主任 坂下美穂)

面会へ

遠方の父母の元へ、電車を乗り継ぎ向かいます。お出かけ気分でご機嫌でしたが、都会の騒音に目をパチパチさせていました。久しぶりの再会に緊張していましたが、抱っこをしてもらい、笑顔で帰つきました。

(家庭支援専門相談員 森 美津子)

夜のお散歩

十五夜の日、職員で子どもたちのために、画用紙でうさぎの耳を作りました。それを見た子どもたちは嬉しそうに飛び跳ね、とても楽しそうです。夜、暗くなるのを待つて、まん丸お月様が見える散歩を楽しみました。

土日の散歩では、小中学生さんと出会います。サッカーを教えてくれたり、拾った栗を分けてくれたり、カマキリを触らせてくれたり。最初は緊張した様子の子どもも、次第に目をキラキラさせて小中学生に憧れの眼差しを向けっていました。(副主任 今道さやか)

栗ご飯

秋になると隣保館周辺に毬栗が落ちてきます。拾った栗を大事そうに持ち帰り、厨房まで持つて来てくれます。その栗は、栗ご飯に変身します。創設

特別養護老人ホーム
弥栄の郷（やえのさと）



デイサービス曜日対抗運動会

利用者さんが楽しく参加できる種目を考え、運動会として玉入れをしました。曜日対抗にして利用者さんが輪を作つて座り、制限時間（一分間）に入れた玉の数を競い、多く入った曜日が優勝です。

「月曜日より多く入れよう!」「火曜日に勝つぞ!」などの声を掛け合つて盛り上がり、チームとの絆も深まっていました。普段大きな声を出されない利用者さんも、この時は声を出して応援していました。

「楽しかった」と喜ばれ、いつもとは違った表情を見ることができました。今後も楽しんでいただけるよう色々なレクリエーションを考えていきます。

(介護職員 川上京子)

(支援員 太田明子)

障害者自立支援拠点
レモンテラス



秋の芋掘り体験と焼き芋会

みんながお待ちかねの芋掘り体験が今年も開催されました。「歳から六十歳までの年齢も個性も様々な利用者さんが、それぞれの得意なことを活かして頑張りました。

大きい芋を掘り出してくれる力持ちの子どもたち。芋を車椅子のテーブルに乗せて運び、土の汚れを丁寧に払ってくれる利用者さんもいました。みんなで協力してたくさん収穫できました。芋掘り終了後、じっくりと焼いた芋をいただきました。「美味しいかった」「大きい芋とったでー」「虫いややつた」など、おしゃべりもはずみました。レモンテラス全体が楽しく笑い声の絶えない一日になりました。

HOSEINでは、パンフレットやHPはもちろん、高校生対象の進学サイトや進学雑誌を通じて色々な広報活動を行っています。

学校のことを知つてもらつのが一番の狙いですが『愛ある働き人』、具体的には、「障害のある子どもや虐待を受けている子ども、そして保護者に対するできる保育者」になりたいと思って応できる人に、一人でも多く入学してほしいと考えています。

そこで、教員の感覚ではなく、在校生自身で学校のPRをしてもらつのが何よりもと思い、Tik Tok、インスタグラムを始めました。飾らない学生の雰囲気を是非ご覧ください。

(副校長 植田彌生)

大阪保育福祉専門学校



Tik Tok & インスタ やつてます!

『マンカラ』という卓上ゲーム(ビーチ玉などを入れる穴が並んだボードの上で、自分の陣地の穴からビーチ玉を早くなくした人の勝ち)が、年長組のクラスで流行し始めたしました。しかし、一つしかボードがなかったため、子どもたちは順番待ちをしていました。

「それなら、マンカラを増やそう」ということで、みんなで手作りするようになりました。材料は、幼稚園の敷地内で育っている竹を使いました。使い慣れないノコギリなどの道具に最初は緊張の面持ちでしたが、通園バスの運転スタッフに手伝つてもらい、上手に切ることができました。完成後、竹の手触りの良さを味わいながら、ゲームを楽しんでいます。

(教諭 磯田優香)

山崎幼稚園



園庭の竹でおもちゃ作り

『マンカラ』という卓上ゲーム(ビーチ玉などを入れる穴が並んだボードの上で、自分の陣地の穴からビーチ玉を早くなくした人の勝ち)が、年長組のクラスで流行し始めた。しかし、一つしかボードがなかったため、子どもたちは順番待ちをしていました。

「それなら、マンカラを増やそう」ということで、みんなで手作りするようになりました。材料は、幼稚園の敷地内で育っている竹を使いました。使い慣れないノコギリなどの道具に最初は緊張の面持ちでしたが、通園バスの運転スタッフに手伝つてもらい、上手に切ることができました。完成後、竹の手触りの良さを味わいながら、ゲームを楽しんでいます。

異年齢クラス三歳児のAちゃんの口癖は「三歳やからできひん」。どうしたものかと頭を悩ませる担任保育者。しかし、そんなAちゃんに転機が訪れます。Aちゃんのお誕生日です。「四歳なつたらできるー」というその言葉を信じました。

お誕生日当日、大きくなつたら何になりたいかを問われると「保育園の先生」と迷いのない一言に、驚きと嬉しさが込みあがみました。身辺のことも自分でやり始めたAちゃん。「一つ大きくなつたことで、やってみようかな」という気持ちが芽生え一步前進。自信溢れる笑顔も見せてくれるようになりました。これからどんな成長を見せてくれるのか楽しみです。（保育士 池上希望）

定員いっぱいの一・二十六名で始まる一歳児クラスのうさぎ組。新入園児も多くのものかと頭を悩ませる担任保育者。しかし、そんなAちゃんに転機が訪れます。Aちゃんのお誕生日です。「四歳なつたらできるー」というその言葉を信じました。

今年度から、二歳から十九歳未満をく、慣れるまで時間がかかる一方、人に興味が沸く時期で思いのままに表現もします。そのため、『落ち着ける環境作り』を考えてきました。今年は保育室を一つに分けてスタートし半年が過ぎましたが、少人数で過ごすことで落ち着いてると実感しています。また、体を動かせるようにとホールにも保育室があります。分散することで担当とのかかわりがより密になります。

従来の注射と違い、接種は年齢に関わらず一シーザンに一回のみで、両方の鼻にスプレーを吹きかけるだけなので、痛みが少なく注射が苦手な方や、接種部位が大きく腫れるという方に選ばれています。

注射を怖がっていたお子さんも、接種後は「痛くなかったよ」と安心し笑顔になっていました。

（看護師 泉 典子）

十月に入り、インフルエンザワクチンの接種が始まっています。

今年度から、二歳から十九歳未満を対象に新たに鼻に噴霧するタイプのインフルエンザワクチン（フルミスト）が承認されており、当院でも接種を行っています。

従来の注射と違い、接種は年齢に関わらず一シーザンに一回のみで、両方の鼻にスプレーを吹きかけるだけなので、痛みが少なく注射が苦手な方や、接種部位が大きく腫れるという方に選ばれています。

注射を怖がっていたお子さんも、接種後は「痛くなかったよ」と安心し笑顔になっていました。

（看護師 泉 典子）



『四歳なつたらできるー』



落ち着いて過ごせるように



痛くないインフルエンザワクチン



作って遊ぼう

山崎保育園

認定こども園
藤の里保育園

附属診療所
さくらクリニック

つどいの広場（子育て支援）
ぱんだのいえ

